

ゼロ・ウェイスト 円卓会議 会議録

部 会 名	ゼロ・ウェイスト円卓会議		記録者	福田(クリーンセンター)
開催回数	第2回			池崎(環境モデル都市)
開催日時	平成21年6月22日(月)18時30分～21時			
開催場所	クリーンセンター			
出 席 者	所属	名前	所属	名前
	熊本学園大	宮北	ごみ減量女性連絡会議	永野
	熊本学園大	藤本 延	教育旅行プランニング	森山
	熊本学園大	西村	水俣自然学校	小里
	市議会議員	中原	環境対策課	岡本
	市議会議員	西田	クリーンセンター	有村・福田
			環境モデル都市推進課	川野・池崎
				計 13 名
欠 席 者	リサイクル推進委員	桑畑	商工観光室	光田
	茶生産者	松本	婦人会	棚橋
	水光社	廣田		
	欠席者 計			5 名
1. 前回の確認 ○ゼロウェイスト円卓会議は、今回で通産8回目。前回の会議で、世話人:宮北・藤本、世話人補佐:山下、事務局:環境モデル都市推進課、事務局補佐:クリーンセンターが務めることが決まった。 2. 各メンバーの活動内容・成果・課題の整理 ○活動内容のフォーマットに、各自記入して、次回の円卓会議までに事務局に提出すること。次回それを見ながらすぐ議論できるようにしたい。 3. 環境フェスタ企画案について ○11月に市民に向けて環境モデル都市の取り組みをアピールしたい。(7～8月に地域講座で各地区をまわるので、その後、大きなイベントとして環境フェスタを企画している。)(財)自治総合センターは、主催の宝くじ助成金をもらう関係で名前だけ入っている。日程と場所については決まっているので、内容(案)について意見をもらいたい。基本的な考え方については、水俣市の「ごみゼロ推進宣言(イメージ)」を参考にしてもらいたい。 ○環境フェスタは、5つの円卓会議すべてに関係している。ゼロウェイスト宣言についてここで議論したい。 ○ごみ女連では、2010年1月を目標に、「レジ袋無料配布の取りやめ」をやりたいが、11月のフェスタの中で、そのような宣言も入れられないか?レジ袋については、7月からの地域講座で市民に説明する。 ○レジ袋については議会でも取り上げられた。商店街や生協のハードルは越えられたので、あとは市民への周知が課題。 ○市民が宣言をして、行動できるような形にしたほうがよいのではないかと。レジ袋が生活の中からなくなることによる、ライフスタイルの組み換えを負担に思わせないようにしなければ。市民の反応が聞きたい。 ○地域講座は23箇所で行われる。企業・学校単位で取り組むのはよい。特に学校単位での取り決めは、親へも影響する。 ○会社でも環境行動に取り組まざるを得ない状況になっている。企業にも宣言してもらえれば。 ○単に宣言するだけでなく、水俣市で何をするのかが大事。その行動の1つとして、レジ袋無料配布の取りやめがあるとよい。 ○①リサイクル推進委員の勤続表彰について リサイクル推進委員を一人の人が長年続けるのは、代わりたいたいけど代われないからではないか? ②交流パーティ会場があらせになっているが、地産地消の観点から生活博物館に協力				

できないか？

○リサイクル推進委員は50～60人いるが、1年で交代が50～60%。長い方は当初からの4名。表彰予定は11名いる。長い方でも昔の考えのままだしている場合もあるので、長く続けるのがいいというわけではないと思う。推進委員をローテーションで回すかは各地区次第になっている。表彰はエコタウンフェスタの中で行えばよいのでは？

○みなまた環境大学と日程が重なっているの、パーティを一緒にしたり、講演を聴きにきてもらったりできるのでは。いろんなところから来た人が参加するのはよい。

○パネルディスカッションについては、①大きなテーマまたは②ゼロウェイストに特化のどちらがよい？

○製造時から廃棄について考えるように、ゼロウェイストの横のネットワークをつくり、国への働きかけを行っていく必要がある。テーマがはっきりしているほうが、市民もごみゼロに向けて取り組みやすい。

○枝廣さんに全体的な話をしていただいて、パネルディスカッションではごみゼロについて話すということでどうか。

○状況の整ってきている“みなまた”で、日本全国のゼロウェイスト宣言を行っている自治体がつながっていきけるようにしたい。

○ごみゼロ推進宣言の内容についてはどうか？みなまたらしい宣言とは？給茶スポットをひとつの核として、5ヶ月間で話をつめていかなければいけない。

○リサイクルできる商品を増やせるよう、企業の意識を変えていく必要がある。

○ものづくりへの提言として、つくったものは生産者が回収するような仕組みがあるとよい。

○水俣では、有害な廃棄物を生き物が受け止めて、それとどう向き合うかを50年かけて考えてきた。それを宣言に織り込むと水俣らしいものになるし、他の自治体へも影響を与えられるのでは？エコポの田中さんは、自動販売機のジュースを全てビンにしようとの提案をしており、コカコーラも賛同している。

○田中さんの話は、自販機を一度に撤去するのではなく、缶・紙コップ→びん→給茶スポットへと、段階的に進めていこうというもの。

○びんでも消費電力がかかる。公共施設から自動販売機をなくそう。

○全部一度に撤廃するのは難しい。自販機が街頭の役割を果たしているところもある。自販機を適正に配置し、中身はびんにするのが理想。自販機もゼロウェイストのテーマに入りたい。ごみゼロ宣言の中身については、毎回議論していく。

4. みなまた給茶スポット進捗状況の報告

○本来なら今春から給茶スポットを実現したかったがまだ実現していない。現在、水俣芦北地域振興基金に助成金を申請中。みなまた茶をブランド化し、全国的に展開していきたい(吉本清隆さんにロゴマークのデザインを依頼中)。9月頃から説明会とワークショップも実施する予定でいる。11月のフェスタに絡めた形で展開していきたい。

○みなまた駅に給茶スポットを置くとよいきっかけになるのではないかと。ただし、おれんじ鉄道が自販機をどのように思っているのかは不明。

○教育旅行プランニングの旅行受け入れ条件に、マイ箸、マイボトルを入れてもらうとインパクトがある。

○先日南里で230名を受け入れた際に、わっぱめしの器(リターナブル)を購入、使用してもらった。ごみが出ないのがよい。機会があれば利用してもらいたい。

○山海館等の旅館では、水筒を出すとお茶を入れてもらえる。行く先々に給茶スポットがあれば便利。

○他団体とイベントを行うときに、マイカップを持参してもらうと意識付けにもなる。

○深川小学校の閉校式で、竹の箸、地元料理がでてきたが、ペットボトルでの乾杯だった。マイボトルの普及を同時に行っていく必要がある。リユースからリデュースを水俣の一つの核にしたい。

○子どもの小学校のバーベキューに参加したが、マイカップ、マイ箸、皿を持っていったのは、自分のところだけだった。特に30代(親世代)の意識が低い。学校でゼロウェイスト宣言をすると、親への影響があるのでよい。

○給茶スポットは夏場が問題。産廃のときの水出し茶がよかったので、検討してみてもいい？

	○もともと象印で始まったのは、冷たいお茶。いろんなやり方がある。 ○マイボトルがスタンダードになっていくには、もう少し強制力が必要。 マイボトルを持っても使っていない人もいる。 ○自販機の料金設定でも差別化できればよい。また、マイボトルをプレゼントするのもよい。 5. ごみステーション調査について ○ごみステーションのしくみは、水俣の個性。地域が主体性をもって管理している。ごみ政策にいくつかの課題が表面化してきており、現状がどうなっているかを改めて調査する。調査は2段階に分けて行う(①各ごみステーションでの収集状況を観察②各ゴミステーション担当者へのヒアリング)。 ①を行うことで、他のステーションの良い点を共有できる(分別表の細かいルールまでなぜ守れているのか? 特別な仕組みがあるのか?)。 ②を行うことで、ごみ出しに対する個人の意識がステーションの運営にきちんと反映されているかがわかる(ごみを分別しやすいようになっているか)。また、地域レベル、市レベル、国レベルでの課題がわかる。 ○調査はごみ女連だけでなく、興味のある市民に参加してもらおうとよい。なぜこのように分けるのか、という理由がわかったらもっと分けやすくなる。 ○水俣の特徴の一つに、還元金がある。地区によっては、還元金が地区の収入源に組み込まれている場合も。還元金の使途も調査項目に入れるとよい。 ○ヒアリング内容については検討が必要。 ○大変な調査だが、ごみゼロへの意識は高まる。多くの方に参加してもらいたい。ごみ女連と市民調査員で予備調査を行い、次の会議の際に報告をしたい。 6. その他 ○修学旅行で弁当がらなどのごみを出さない学校に対して、水俣市から表彰状がもらえないか? 受け入れ団体でごみ出しを把握する。マイボトルを持参してもらう場合は、旅館等でお茶を淹れる手間などを検討する必要がある。
次回日程	次の会議は、7月31日 18時半～ クリーンセンターにて ※ 7月10日くらいまでに、活動内容を環境モデル都市推進課までメールまたはFAXにて送る